

ついに東京オリンピックのチケットの販売がはじまりました。最高額は開会式の30万円とのことですが、競技等によっては2020円からチケットが購入できるとのことです。せっかくの機会なので、見に行きたいなと思っています。そんな中、北京オリンピックでの男子400Mリレーが銀メダルになりました。メダル授与式で、朝原さん、末次さんはアンチ・ドーピングへの想いを口にしていました。ドーピングという単語は聞いたことがあっても、具体的にどういうものかはあまり知られていないのではないのでしょうか。

まず、簡単にドーピングの歴史を紐解いてみましょう。ドーピングという単語の起源は、アフリカ南部の原住民カフィール族が祭礼の時などに飲む強い酒「dop」にあるといわれています(諸説あります)。スポーツの世界では、1865年の水泳競技でドーピングが報告され、1966年には自転車レースでドーピングによる最初の死亡例が報告されています。1960年のローマ・オリンピックにおいて、アスリートの死亡事故が発生したことを受け、ドーピングを取り締まる動きが起こりました。1966年には、サッカー、自転車競技の各選手権でドーピング検査が導入されています。



オリンピックでは、1986年からドーピング検査を開始しました。しかし、競技種目や国によって禁止薬物は異なり、違反時の制裁も統一されていませんでした。ドーピングの取り締まりを、競技種目や国にかかわらず統一したルールで行うために連携をはじめたのは、1999年に「世界アンチ・ドーピング機構(WADA)」が設立されてからになります。日本では2001年に「日本アンチ・ドーピング機構(JADA)」がWADAの下部組織として設立されました。そして、アンチ・ドーピングの統ルールである「世界アンチ・ドーピング規定(Code)」が2003年に採択され、2004年のアテネオリンピックはCodeが適用されたはじめてのオリンピックになりました。日本では、2013年から高等学校の保健体育で、すべての高校生を対象にアンチ・ドーピングの倫理について教育を行うことになりました。

では、何をしたらドーピングなのでしょう？ドーピングとは、「スポーツに於いて禁止されている物質や方法によって競技能力を高め、意図的に自分だけが優位に立ち、勝利を得ようとする行為」のことです。つまり、禁止物質を意図的に摂取するのはもちろんドーピングですがそれ以外にも、ルールに反して競技能力を高める「方法」も、それらの行為を「隠すこと」もドーピングになります。理由や事情を問わず、検査して陽性(禁止物質が検出される)であればドーピングとされます。知らない間に飲み物に禁止物質を混ぜられても、飲んだアスリートはドーピングを行ったとされます。海外製のサプリメントを飲んで表示にない禁止薬物が含まれていたとしても、風邪を引いて飲んだ薬にたまたま禁止物質が入っていてもドーピングとされます。こうした故意ではなく過失によるドーピングは「うっかりドーピング」とよばれますが、故意でなかったとしても、制裁を免れることは難しいです。アスリートの役割及び責務として、自己の摂取物および使用物に関して責任を負うことが求められています。実際に海外の大会では、アスリートは飲み物の管理を厳重に行っています。以前、日本でも他のアスリートの飲料水に禁止物質を混入する事件もありました。こうしたケースでも、ドーピングとされた選手が自らの無実を証明しなくてはなりません。また、検体採取を拒否することもドーピングとされます。一定のレベル以上のアスリートはWADAに居場所情報を報告する義務があり、抜き打ちでドーピング検査をされます。ドーピング検査の手順も厳しく定められており、ドーピング検査員(DCP)に従う必要があります。

陽性が出たらドーピングとされる禁止物質のリストは、最低でも年に1回改定されます。もし、今年からリストに追加された禁止物質は、去年までは使用してもドーピングではなかったものが、今年になるとドーピングになってしまいます。また逆の場合もあり、去年は使用するとドーピングだった物質が、今年から禁止物質のリストからはずれた場合は、今年の使用はドーピングにならないこともあります。中には、病気の治療で、どうしても禁止物質を使用しなくてはならない場合もあります。こうした場合は、事前に申請して承認を得ることができれば、禁止物質を治療用で使用でき、検査で陽性がでたとしてもドーピングとはされません。ドーピング行為に反対し、教育、啓発、検査といった様々な活動を行うことを「アンチ・ドーピング活動」といいます。こうした活動を通じて、フェアであることを支え、アスリートの健康を保護するために、ドーピングの撲滅を目指します。ドーピング検査をして陽性だとメダルをはく奪する活動ではなく、スポーツの価値を維持するためにフェアであることを支え、アスリートの健康を保護するために教育や啓発活動をしています。



ドーピングと聞くと、遠い世界の話だと思ってしまうかもしれませんが、そうではありません。どんなトップアスリートも最初は普通の人です。様々なトレーニングや経験を通じてトップアスリートになっていきます。明日からトップアスリートになるから、ドーピングに気をつけようとはならないのです。トップアスリートになれば、トレーナーやメディカルチームが帯同し、様々なサポートを受けることができるかもしれません。でも、トップアスリートを目指している間はどうか。ドーピングの可能性があるから、薬を使用するのを我慢して十分なパフォーマンスを発揮できなかったという話を聞いたことがあります。薬を使って、ドーピングではないか不安な気

持ちを持っていたという話も聞いたことがあります。現在、日本にはスポーツファーマシストという資格があります。公認スポーツファーマシストは、最新のアンチ・ドーピング規則に関する知識を有する薬剤師です。トップアスリートを目指している方も、趣味でスポーツを楽しんでいる方も、ドーピングに興味を持たれた方は、一度相談してみましょう。

しおはま薬局